

会員の皆様へ

昨年 11 月に中国武漢市で発生したと思われる COVID-19 と名付けられた新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界各国へ感染が拡大し、世界の人々を震撼させています。

このような中、医療現場においては、医師が診断・治療の先頭に立ち対応に当たっています。自らの危険をも省みず未知のウイルスに不安やおそれを抱く患者さんに寄り添いながら、県民の命と健康を守るべく種々ご尽力いただきましたことに沖縄県医師会を代表して感謝と敬意を表します。

本県では、3月下旬から4月中旬にかけて感染者が急増し、一日に 10 例を超える患者が発生しました。医師会としても県の専門家会議に担当理事を派遣すると共に適宜、県民に感染防止の呼びかけを行いました。入院患者は最多時には 101 人(4月 23 日時点)を数え重症者も多発し、医療崩壊が心配される場面もありましたが、皆様方の力強い活動の結果、最初の流行を乗り越えることができました。現在は、40 日以上患者発生が無く、6月 8 日には入院患者もゼロとなっています。

これも偏に、感染症指定医療機関並びに協力医療機関の医療スタッフが日夜を分かたず献身的に治療に当たられたこと、また地区医師会が運営する発熱外来・PCR採取センターを急遽立ち上げ県民の不安に応えるなどの県内医療関係者が総力を結集して新型コロナウイルス感染症に対応した賜であると思います。改めて会員をはじめ医療従事者の皆様方へ深甚なる感謝を申し上げます。加えて、皆様のご努力により医療機関内感染や高齢者施設内感染が発症していないことに安堵しています。

多くの県民が、懸命に県民医療を守るために奮闘された医療従事者に感謝し応援しています。本会には、県民や企業等から医療現場を支援したいとして、寄付金、マスク等医療資材、中高生からの激励メッセージ等、物心両面からの支援が届いています。頂きました医療資材は適宜医療機関に配布すると共に、寄付金については今後医療現場支援のために適切かつ有効に活用させていただきます。中高生のメッセージは本会のホームページでご覧いただけます。

しかしながらこれで終わりと考えるのは楽観に過ぎます。流行は繰り返されることが予想されます。我々はこの試練を乗り越えていかなければなりません。会員の先生方には、引き続きそれぞれのお立場でそれぞれの役割を発揮していただきますようお願い申し上げます。

沖縄県医師会といたしましても、今後とも会員一丸となって新型コロナウイルス感染症対策に取り組んで参りますので、ご支援ご協力の程お願い申し上げます。

令和 2 年 6 月 吉日

沖縄県医師会

会長 安里 哲好